



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.5.6 No. 3787

沖縄現地・天皇訪沖阻止 首都東京貫いた

沖縄植樹祭・追悼式典粉碎、自衛隊即時撤兵

アジア侵略のための沖縄植樹祭・追悼式典粉碎、自衛隊即時撤兵、四・二五総決起集会が、沖縄現地の闘いととも、東京・宮下公園において、労働者・人民三五〇名結集のもと開催された。

真の反戦闘争の継承・発展担い 抜いた労組交流センターの闘い！

らかにし、今日の「政治改革」一改憲阻止、都議選勝利に向けた決意の程を、沖縄一首都東京を貫く圧倒的デモによって示し抜いたのだ。



宮下公園に闘う人民が結集！

決意表明に起った田中書記長は、「沖縄戦は、天皇の命脈を守るため判断されたものであり、哀悼の意など歴史の偽造だ。天皇訪沖は、天皇制による沖縄のアジア支配への攻撃だ。後藤田体制による不当弾圧が、同時に横行している。これは政府・支配階級の危機と、労組交流センターが、相手の側からも認知せざるを得ないものとなっていることを示している。動労千葉は、今春闘をストライキで闘い、戦術拡大によってJR体制のスト破壊を粉碎した」と闘いの確かな進展を全体化した。

沖縄現地闘争に参加して！

二度と侵略の歴史をくり返さない 身体を張った闘いに触れた三日間

四月二四日から二六日にかけて、植樹祭・天皇来沖反対の沖縄現地闘争を、青年部派遣団四名(動労千葉五名)は元気がいっぱい闘ってききました。

二四日昼に羽田を出発、夕方、明日の植樹祭を前にした「日の丸」裁判勝利沖縄支援共闘会議の集会に参加し、県庁までデモ。

二五日、いよいよ本番、沖縄現地は全国各地での闘いに連帯し、植樹祭の会場である糸満市・摩文仁の丘の近くで、植樹祭・天皇来沖反対集会に参加し、途中右翼の敵対をはねのけて、天皇に怒りのこの声とどけとばかりにシュプレヒコール、意気高くデモを貫徹。夕方から、知花昌一さん、知花盛康さん、沖縄労組交流センター(準)の呼びかけによる反戦・反天皇を闘う交流集会が開催され、青年部も代表があいさつ。その日の夜は、遅くまで沖縄の闘う人達との交流会が続きました。

二六日は、本部町豊原で自衛隊のP3C基地建設と闘っている住民の人達と交流しました。

戒厳令的な過剰警備の中で強行された、「歴史上初の天皇来沖」とは、天皇の名で「沖縄戦を終わらせ」、植樹祭＝木を植えるのではなく、天



皇制を「植え付ける」ための、沖縄の人々に有無を言わせぬ「征服儀式」そのものです。

しかし、PKOカンボジア派兵の中で、沖縄をアジア再侵略の出撃基地につくり変えるための侵略の儀式であった天皇来沖と植樹祭の狙いは、沖縄のしたたかな力強い反戦・反天皇の闘いに打ち砕かれました。

二度と侵略の歴史をくり返さない。子や孫のためにも、戦争につながる一切のものに対する身体を張った沖縄の闘いに触れ、もっともっと本気で闘うことを決意した三日間の沖縄現地闘争でした。

最後に、派遣カンパありがとうございます。

※青年部派遣団S君

